

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272200548		
法人名	株式会社ケイテン		
事業所名	グループホームさち 2F 月		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町栄町572		
自己評価作成日	令和元年10月2日	評価結果市町村受理日	令和2年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32722](http://index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32722)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	令和元年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年々高齢になり、介護度も上がり重度化してきています。可能な限り寝たきりにならない様に出来る限り、離床機会を確保すると共にオムツ使用を最小限にすることに取り組んでいます。
寝たきり予防・転倒予防のために転倒予防体操・リハビリ体操に力を入れています。
又、日々の調理・掃除・洗濯等軽作業を御利用者と職員が共同しながら残存機能を活用し、メリハリのある生活を送ることで認知症症状の進行を少しでも予防出来れば、と頑張っています。
「ピンピンコロリ」を目標に、自分の足でトイレへ行き、自力で食事摂取が出来る様筋力・知力低下予防に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が残された時間を大切に自分らしく穏やかに暮らしていけるよう支援している。以前は行事も職員と一緒に頑張って積極的に行っていたが高齢化により年々様子も変わってきた。そんな中でも日めくりカレンダーをめくる人、新聞受けに取りに行く人など役割を持ち、地元の神社の御礼祭にお参りして地域の人と交流する等、今出来る事を大切にして過ごしている。代表者、管理者を初め職員同士も思いやりを持ち、互いに長所を認め合い、働きやすい職場づくりを利用者へのサービス向上につなげ、利用者を中心にした支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	慈愛・安堵という二つの言葉の中に日々の穏やかな生活を見出した。理念が書かれた紙は事業所の目につく場所に貼り出しその言葉を意識しながら、日々仕事に取り組んでいる。	理念を具体的に1F、2Fそれぞれのケア会議で話し合い、利用者が安心して笑顔で暮らせる様に実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板の巡回、自治会加入し溝掃除、等積極的に参加している。 職場体験実習生との関わり方の継続。 また、以前行っていた保育所との交流事業も再開を検討している。	事業所の催し等は家族、地域、関係者に呼びかけ多くの人の来訪がある。小学生がトイレを借りに寄ったり、中学生の窓拭きや、音楽隊、手品等のボランティアを通して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中高生の福祉体験受入を毎年行い、認知症の方との関わり方・接し方を実際に体験して頂く機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度利用者状況・行事等の報告・活動内容、問題点等を話し合い、出席者へ意見を求める場を設け、意見を基にサービス向上に取り組んでいる。	参加者が自由に意見を述べられる様な雰囲気作りを心掛け、多様な内容で話し合い、助言や活動の評価を得てサービスの向上に活かしている。家族にも会議報告を送付して内容を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治会加入し、地域行事へも可能な範囲で参加させて頂いている。又、納涼祭等施設行事にも民生委員はじめ、御近所の方へも声をかけて参加を募っている。	日頃から情報交換や相談を行い、助言や情報提供を受け協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束により、利用者に与える身体的・精神的苦痛を理解しており、利用者一人一人に予測されるリスクを把握し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。定期的に身体拘束について学ぶ場を作っている。	事業所内・外の身体拘束、虐待防止の研修や勉強会に参加して理解を深めている。日々の関わりの中で気になる事は話し合ったり運営推進会議でも話している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	地域で開催する研修会等へ積極的に参加すると共に虐待についての知識を深める為、毎月定期的にケア会議を開催している。日々の関わりの中でも相互に職員間で話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護対象となる御利用者は現在おられない。適宜必要に応じて制度の活用を促すことを踏まえて援助を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・申請に来られた際はホーム内案内・実際に利用者のおられるフロアで様子を見学して頂く。又、入所前には「契約書」「重要事項説明書」に基づき説明・了解を頂き契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者自身の想い・意向を日々の関わりの中で捉える事、御家族の立場を理解したうえで面会時に意見・要望を頂く様努めている。ご意見は記録し、改善に努めている。	面会時や受診の時等に日頃の様子を伝えたり意見、要望を聞いている。家族との関係を大切にして変わったことがあればこまめに連絡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケア会議を実施し、職員意見・気づきを検討し運営・サービス向上に向けた取り組みに反映している。連絡ノートを活用し速やかに検討・反映が出来る様取り組んでいる。	管理者は日頃から職員が意見、要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。年1回個別面談を行い意見を聞き、出来る事から改善し職員が働きやすい職場環境になる様に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課を行い、自己評価に基づき職員個別の実績を評価している。処遇改善加算等を活用し、給与水準・労働環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内に基づき、時には希望者・管理者の氏名により、多くの職員に研修参加が出来る様取り組んでいる。研修参加の後には復命を基に内容の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通して、地域の事業所との情報交換を行っている。町主催の地域連絡会への出席も毎月行っている。地域の島前・島後の同業種でネットワークも作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、事業所側から事前に面談を提案し、生活歴を含め御利用者・御家族の想い・要望・想いを受け止める事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接時に思いを伺いながら、信頼関係が構築できる様働きかけを行っている。入所当初は努めて御家族との連絡を密に行い、情報の共有にも務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を精査し、何が優先して必要であるかを相談し、優先して取り組むべき事を早急に支援できる様にしている。必要に応じ島内の他サービス・公的機関との連携も図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝は体操前の掃除に始まり、散歩・外出・食事の支度・洗濯等職員と共に生活を送り、残存能力に応じた役割作り・共に助け合える関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・又は電話にて生活状況・病院受診状況をお伝えし、電話・面会を通した関わり・絆を大切にすると共に御家族と共同して支えていける様に適宜相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方の来訪等時に和やかに過ごして頂ける様心がけている。なじみの理髪店・宗教活動・地域との関わりを絶たない様、希望に応じて送迎・付添・地域の協力を得る等取り組みを行っている。	利用者の思いを大切にし関係継続の支援に努めている。宗教活動や行きつけの美容院に行く時に関係者の協力があり送迎してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の個性・生活行動を観察し、入居者同士が関わり・なじみの関係作りに配慮している。利用者間トラブルにも職員が間に入り仲裁・関係修復に向けた取り組みも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所・入院された後も、面会・病状の共有を行う等関わりを継続し、御家族との相談・協議も必要に応じて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴・趣味趣向・生活習慣等から「できる事、出来ない事」等把握し、日常会話で気になる事は記録に残し職員で把握できる様努めている。意思表示の難しい方は御家族からの情報提供を大切にしている。	言葉、表情、しぐさ等から本人の思いをくみ取り、得意な事等を探して申し送りノートで情報の共有をしている。「図書館に行きたい」との希望は、「外に出たい」との思いから出た言葉だったりする事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を、事前に又は適宜情報提供頂き、把握できる様に努めている。申請代行の居宅介護支援事業所とも入所前から密に連携を図る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の生活状況を観察し、その人の性格・心身状態に応じた能力等見極め、現状を把握し支援に反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ケア会議を開催し、ケアマネ・スタッフ間で意見交換・課題解決に向けた検討を行い計画書へ反映する取り組みを行っている。	利用者や家族の要望を聞き、申し送りノートを参考にしながら利用者にとって最良の支援は何かを話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の援助経過記録・特記事項に加え連絡帳を活用し、気づき・情報の共有を図るための取組を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の要望に対して、外出・外泊及び、施設で家族と宿泊する等の対応を臨機応変に行える様に対応している。又、宗教活動等生活歴に即した対応も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺に小学校・中学校・高校があり、登下校時の賑やかな声を聴ける環境がある。「SO Sの家」に指定されている。図書館利用も個別に対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族との相談をしつつ、かかりつけ医との連携も必要に応じて行い、診察時は職員が補助を行う。医療機関との連携も適宜行い、状態変化に応じた診察・受診が出来る体制を整えている。	今迄と同じかかりつけ医を受診している。利用者、家族が専門医を希望する時は、希望に沿った受診が出来る様に医療機関と連携して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は各階配置されている。24時間連絡が取れる体制を整えている。適宜状況の変化に応じて看護師へ情報の集約を行い、受診・看護等必要な対応が受けられる様配慮を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供・入院中の面会を行い、入院期間・退院時期等必要に応じて家族・医療機関と連携を図り早期退院が可能となる為の連携を図っている。又、入院が長期化した際も最大限退院先として受け入れが出来る様考慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族へ重度化した際、終末期を如何に過ごして頂くかも含め必要に応じて看取りケアの方針を含め伝え、御家族の意向を伺う機会を設けている。看取りケアは往診可能な在宅医に主治医変更を行うなどして終末期ケアに取り組んでいる。	早い時期から利用者、家族の希望を尊重して医師、関係者と話し合い、方針を共有して終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは作成しているが、今年はまだ訓練を行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施している。	春には初期消火、秋には2階からの出火を想定した避難訓練、AEDを使った学習会を行った。災害に応じた避難マニュアルや避難場所の確認を全職員で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉かけを心がけている。 職員相互に注意しあえる職場環境にも心がけている。	人生の先輩として敬い、失礼な言葉にならない様に職員同士で注意しながら目線を合わせて会話する事を心掛けている。入浴時や排泄時はプライバシーを損ねない様配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活歴・趣味趣向等の情報を把握すると共に、都度飲み物・食事の趣向等意見を伺いメニューに反映する等行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のスケジュールは最低限の範囲に留め、その日の天候・意向等により外出・アクティビティ等多様な選択肢から選択できる環境を整える様努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧・洋服の選択等は各自自由にしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好等を伺う機会を通してメニュー変更も適宜行っている。残存能力に応じた共同作業も適宜実施している。	郷土料理、祭り料理、誕生日には本人の希望する食事を提供する等、季節の食材で楽しめる様にしている。職員も利用者と同じものを食べ和やかな場面づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて刻み・トロミ食・ブレンダー食等食事形態を工夫している。個々人の食事・水分摂取量を把握し、趣向等工夫して低栄養予防に向けた取り組みを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは全員行う様にし、個別にポリデント等の使用を行い口臭予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	其々の排泄パターンを把握し、必要に応じた援助・トイレでの排泄が出来る様援助している。其々の残存能力に応じた援助を心がけると共にオムツ使用は極力しない様取り組みを行っている。	1Fの介護度の高い利用者も出来る範囲でトイレ誘導を行って支援し、紙パンツやパットの使用を減らす事が出来た。2Fは安全策としてふらつきを支える器具を取り付けた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りヨーグルトを毎朝摂取すると共に水分摂取・食事内容と共に日中の活動機会を確保する等取り組みを行っている。排泄実態の把握に努め必要に応じて排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴リズムは定めるが、個々人のその日の希望・状態に応じて曜日・時間変更も都度行う。入浴には十分な時間をかけ、ゆったりとした雰囲気楽しんでいただける様配慮している。	利用者の体調に合わせて柔軟に対応している。入居前は入浴を好まなかった利用者もゆったりと入浴出来喜んで。同性介助の希望にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意思を尊重しながら、日中も必要に応じた休息が取れる環境を提供している。又、日中の活動量を確保し、夜間安眠できる様にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員が閲覧できる様にしている。医療面の受診記録等は別にしている。看護師中心に服薬管理を行い服薬確認・適宜症状の変化に応じて看護師相談の元主治医との相談・連携を図る様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理補助・掃除・食事メニュー書き・洗濯干し、たたみ等の役割を持つ事、ドライブ・図書館活用・施設内外行事を通した楽しみを見つけれられる様心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な範囲内で個人の希望に沿って、ドライブ・図書館・自宅へ帰る・買物・近所を散歩する等外出支援を行っている。要望を踏まえ、御家族の協力を得た外出・外泊等もしている。	季節や気候にあわせて1F、2F合同で花見や紅葉狩り、水鳥公園へ遠足等に出掛けている。外出が困難な利用者は裏庭でお茶を飲んだり外気浴を楽しめる様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭所持はお断りしているが、本人・家族承諾の元少額を所持し、適宜買物等出来る等個別の対応を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ・希望に応じて電話を掛ける等の対応を行っている。封書・ハガキ等物品購入・郵便物を出す等本人の意向に沿って必要な援助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾を施す・行事の写真等を配置する等心がけ、過度な刺激とならない様配慮している。定期的・適宜トイレ掃除・喚起を行い清潔保持に努めている。	花や干し柿等季節を感じるものがあり、台所はオープンカウンターで調理の様子を見たり手伝いやすくなっている。所々にソファが置いてあり思い思いに休憩したり新聞、雑誌が読める様にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア・廊下に座れる場所を確保しており、一人になりたい時、利用者間で過ごすとき等希望に応じた対応が出来る様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅使用していた馴染みの物を持参して頂く様依頼している。面会時記念写真を撮り家族との繋がりを感じられる様な配慮も適宜行っている。居室が分からない方に配慮し氏名・屋号等希望に応じて表記している。	毎日使う化粧品や自分で編んだ座布団を敷き、レースを飾り、神社の御札や家族の写真を貼り安心して過ごせる様にしている。毎日スカイテレビ電話で家族と話している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子・テーブル・ベッドの高さは個人に応じて調整を行っている。		